

辺野古土砂北九州

発行…2019年12月・No.1



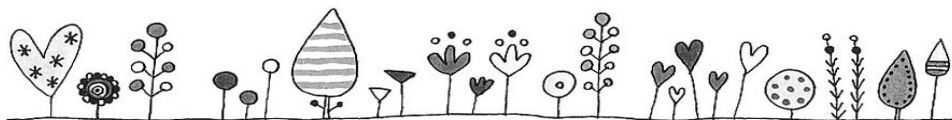
玉城デニー知事も参加された、2019年11月8日の日本平和大会 in 沖縄の開会式での一コマ。翌日は、分科会・閉会集会・パレードと、充実した2日間でした。福岡県独自の行動も1日あり、普天間飛行場や嘉手納基地、琉球村なども訪れました。

《目次》

会報を発行することになりました(世話人会)……………	2 ページ
政治がらみの復元作業許さない国民的監視を(真栄里泰山)……	3 ページ
日本平和大会 in 沖縄に参加して(松本秀樹・八記久美子)……	6 ページ
【シリーズ】日本の基地…第1回・岩国基地(田村順玄)……………	9 ページ
【連続エッセー】自然なくして文化は生まれぬ(浦島悦子)……	11 ページ
今後の予定……………	12 ページ

写真提供…松本秀樹・山田こうじ・田村順玄・八記久美子(敬称略)

発行 「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会



会報「辺野古土砂北九州」の 発行に当たって

みなさんこんにちは。辺野古土砂北九州の世話人会です。

当会のニュースNo.1 は、2015年5月10日に発行されました。会の結成が同年6月10日ですから、会の発足前から発行していたことになります。当時のニュース名は「辺野古埋め立て採石ニュース」でした。

発足総会の様子はNo.14 に掲載されており、その時から「辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース」という名前になりました。84号まで発行しました。

私たちは、運動の力になる様々なことを、常に学びたいと思っていますが、学習会を頻繁に開くということにもならず、その代わりに、ニュースや署名用紙の裏を利用して、情報や解説を掲載してきました。が、それにも限度がありました。

今回、会報にすることによって、「へー知らなかった」「そういう事なんやね」と言う情報を、今後は、よりお伝えできるのではないかと考えています。

会報の名前をゆっくり決める時間もなく、とりあえず「辺野古土砂北九州」と色気のない名前ですが、これもおいおい検討していきたいと思っています。

今後も、門司からの土砂搬出ストップのために、皆さんと力を合わせて頑張りたいと思います。この会報が、その一助になれば幸いです。

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九連絡協議会

世話人一同 大谷正穂・大野保徳・小田恭司・藤堂均
野田恵美・法本健吾・南川健一・三輪幸子
宗吉信・森下宏人・八記久美子



首里城炎上と復旧復元問題

政治がらみの復元作業許さない国民的監視を

玉城デニー県知事を支えて辺野古基地ストップ 安里・大道・松川島ぐるみの会
世話人 真栄里泰山

今、当会では「首里城火災復旧支援カンパ」を取り組んでいます。

実はその取り組みの中で、「首里城は国の所有。まず沖縄に返さないと…」と言う話を聞き、「えっ…沖縄のものではないの!？」とびっくり。

そこで、沖縄の真栄里泰山さんに、首里城の歴史を教えてくださいました。



在りし日の首里城正殿

■県内外に広がるショック

72年の日本復帰以来、40年余をかけて復元し続けて、この2月に完成したばかりの首里城。

国から沖縄県美ら島財団に管理委託され、これから旧尚家中城御殿や円覚寺などの古都首里復旧の公園計画など、次の段階に行けると喜んでいただけに、400点以上にもものぼる文化財焼失を含め、落胆と悲しみでいっぱいです。世界遺産首里城のショックは県内外に広がり、海外での反響も大きい。

■かつてみたことのない市民パワーが

しかし、そのショック以上に驚くべきことが起っている。それは首里城復元復興への市民県民の起ち上がりの速さ。

すぐに自主的に募金が始まり、中高校生による街頭募金、企業団体の寄付、県内外からの募金はわずか一週間で2億円、11月16日現在で6億円を超え、大きく広がっている。

海外の沖縄県人会も立ち上がり、このよ

うな国内外の県民市民の迅速かつ自主・自発的な行動、市民パワーはかつてみたことがない。

沖縄のシンボル首里城への県民市民の思い、歴史文化への思いがこれほど深いものだったのかと、あらためて沖縄のアイデンティティーの力強い成長を確認できた思いがしています。

■深まり広がる沖縄へのまなざし

さらには、沖縄の歴史文化への熱い思いに呼応して、全国各地からの支援や激励が拡大していることです。

沖縄へのまなざしがこれまでと違って、一段と深まり広がっているのだと確信していますが、そこには辺野古新基地建設に対して、軍事基地沖縄からの脱却、世界自然遺産に登録予定の亜熱帯海洋性自然、ジュゴン保護、多様なサンゴや生き物の棲む豊かな海と緑の森を守るため、県民投票はじめ、徹底した非暴力で粘り強く抵抗している県民市民への、共感・連帯感が確認できることです。

安里・大道・松川島ぐるみの会でも、恒例の毎月曜日スタンディングで、早速「辺

野古中止、首里城を「軍事基地より歴史と文化を」のポスターを掲げましたが、大きな反響がありました。

■てっきり沖縄のものだと…の声

そうした中で、「首里城は国のものだったとは知らなかった」、「てっきり沖縄のものだと思っていた」などの驚きの声もあり、はじめて「首里城は国のものだったのか、沖縄のシンボル首里城が国のものということに納得がいかない。まず沖縄に返さなければ」という声もあるという。それは当然なことです。

なぜなら、日本全国の各地のシンボルであるお城は、皇居である江戸城を除き、ほとんどが地元市町村の所有になっているからです。それは明治維新で旧藩の城は明治政府の官有とし、その後都道府県に払下げ、その後県から所在市町村に移管された経緯があるからです。

■首里城の歩み…廃藩置県後

首里城は1879年の廃藩置県で、武力を背景に尚家から強制接收され、そのまま県民を監視威嚇する熊本鎮台沖縄分遣隊営所とされ、その後、全国と同様に沖縄県に移管、さらに地元首里市(1953年那覇市に合併)へ戻され市有地となり、首里工芸学校校舎などに使用されていたのです。

それが次第に老朽化し取り壊し寸前のところで、鎌倉芳太郎・伊東忠太の尽力により古社寺保存法を活用して、1924年源為朝・舜天・尚泰を祭神とする沖縄神社

(その後尚円、尚敬を祭神追加)を創建、正殿をその拝殿として保存、次いで1925年には国の特別保護建造物(国宝)とし、1927年正殿を改築保存してきたのです。

それが1944年太平洋戦争末期、沖縄戦が必至となるなか、沖縄は軍事要塞基地とされ、急遽編成された沖縄守備軍第32軍の司令部壕が首里城地下に築城され、一大軍事基地となったため米軍の攻撃で首里城は壊滅したのです。

■首里城の歩み…戦後

そして戦後、廃墟となった首里城跡には、1951年米軍の布令により琉球大学が創立されました。その後、サンフランシスコ講和条約で沖縄の日本からの分断が確定する中、布令大学と言われてきましたが、首里市は大学設置の為ならばと条件付きで、首里市の財産である首里城用地ははじめ官舎用地を琉球大学に認めてきた経過があるようです。それが、1965年琉球立法院で琉球大学設置法ができ琉球政府立となるなか、1972年沖縄の日本返還で、琉球大学は国立大学になったため、当時は地方自治法による国地方財産関係の知識もないなか、無自覚に国有財産としてしまったのです。

■首里城の歩み…今日まで

とはいえ、沖縄のシンボルである首里城復元の動きは、沖縄返還交渉の時期から県民の間では課題となり、首里城復元期成会を組織して、20数回の陳情が繰り返



11月上旬、沖縄で開かれた日本平和大会に参加したメンバーで、首里城に行ってきました。近くと微かに焼けたにおいがして、改めて無念さを感じました。写真撮影は会員の松本秀樹さん。

えされました。

当時、沖縄への「償いの心」標榜していた山中貞則・総理府総務長官は大蔵省を説得、沖縄返還の1972年には首里城歓会門の復元事業を実現させたのでした。

その後、琉球大学の移転によって、首里城復元が可能となる1984年には、那覇市や沖縄県が琉大跡地利用計画を検討し、正殿復元をはじめ一帯を公園化する案を策定してきました。

しかし、当時は、戦争で壊滅した首里城は国の責任で復元するという事で進んできたこともあり、完成後沖縄側に移管することを想定しつつ復元が進められ、その後沖縄サミットに間に合わせるため工事が急がれた経緯があります。

そして、正殿はじめ首里城公園は管理上海洋博公園と一体の国営公園として管理され、完全復元後は地元に戻すということで、この2月には、まずは沖縄県の美ら島財団への管理委託がスタートしていたということです。

■うごめく思惑

首里城の復旧復元の行政の動きも急速です。玉城県知事はすぐに国に再建を要請、那覇市議会全会一致決議で城間市長と市議会代表と一緒に国に要請、国も国責任で復元することを表明しています。今回の焼失復元については、内外の多額の寄付金、保険保障限度額70億円もあります。

しかし、沖縄県に対しては、各種選挙での投票動向、県民投票の結果も無視して、辺野古新基地建設、日米安保協定問題、宮古八重山与那国など南西諸島全域への自衛隊配備を強行する安倍政権が、首里城復元に絡ませて沖縄への政治的思惑をもって臨んでくるのではないかという警戒感が出ています。

漏電が原因の火災発生の消火作業中に、反日韓国人、中国人が放火したなどのフェイクニュースが出たり、消火活動に自衛隊を要請しなかったので全焼したのだと、県政野党が玉城県政の責任を県議会で追求するなどの新たな動向もあり、予断を許しません。

■みなさまのご支援ご協力を

復元には数年を要するでしょう。資材や技術者不足なども指摘され、十分な予算確保が不可欠です。それだけに、現在国営公園となっている首里城の地元返還、海洋博公園との分離も含めて国県が協力し合う復元計画策定が不可欠でしょう。

県は11月18日に知事直轄の「首里城復興戦略チーム」を設置しましたが、今後は基地との駆け引きなど政治がらみの復元作業を許さないという国民的監視が不可欠となります。

沖縄の私たちががんばります、どうぞ皆様のご支援ご協力、よろしく願いいたします。(まえさとたいざん)

「首里城」火災復旧カンパのお願い

辺野古土砂北九州では、少しでも沖縄のみなさんの力になりたいと、「首里城復旧支援のカンパ」を取り組んでいます。すでに、11月5日に46,776円、11月15日に25,751円を、那覇市の専用口座に送金しました。3回目の送金は12月17日・4回目は1月7日を予定しています。

振込には、同封の振込用紙をご利用ください。※通信欄に「首里城カンパ」と必ずご記入ください。

また、当会への年会費(個人1,000円 団体3,000円)の支払いにもご利用ください。※お問い合わせは…財政担当・大野保徳 090-4482-0043 まで
みなさんのご協力を、よろしく願いいたします。



【報告】日本平和大会 in 沖縄に参加して 土砂搬出く辺野古ストップく安倍政権退場を

松本秀樹・八記久美子

11月上旬、沖縄で開催された「日本平和大会」に、会員の松本秀樹さんと、私八記が参加しました。また、個人・他団体からの参加でしたが、会員の南義久さんと仲築間省三さんも参加されていました。

大会参加の様子を写真でご紹介します。



オープニングは合唱から。11月8日、豊見城市立中央公民館で始まった平和大会開会集会は、1,000人の参加者の熱気であふれていました。



開会の挨拶には、玉置デニー沖縄県知事・山川仁豊見城市長・赤嶺政賢衆議院議員・伊波洋一参議院議員・高良鉄美参議院議員・韓国からのゲストも参加されていました。



これは、翌日の閉会集会。この後国際通り～県庁へと、パレードを行いました。



開会式では、空から飛行機の部品が落ちてきた緑ヶ丘保育園のお母さん、自衛隊のミサイル基地化がすすむ南西諸島、秋田のイーシス・アショア、横田基地、高校生からの報告もありました。中でも、福岡県の「防衛大人権侵害裁判」を戦っているお母さんの訴えには、会場がシーンとなりました。福岡県から参加したメンバーも、一緒に舞台上に上がりました。その時の訴えの文書は、次ページに掲載しています。



私が参加した分科会には、報告者として前名護市長の稲嶺進さんも参加しておられました。

《防衛大人権侵害裁判 原告のお母さん・乃山命子さんの訴え》

まずは平和委員会さまはじめ、共に闘って下さっている皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

10月3日、国に対する判決「却下」の言葉が響き渡り、長々と裁判長が読み上げる判決要旨のあまりの無頓着さに、傍聴席から私と同じ怒りの声が沸き上がりました。元々1つだったこの裁判は足立裁判長の命令により、对学生8名と対国に分離された時点で、薄々想像もできた結果ではありません。2月の学生の判決では7名の加害行為を違法とする総額95万の支払い命令が下り、結果、学生だけに責任を負わせることになってしまいました。

しかし、この裁判では裁判長も認めざるを得なかった、暴力、性的虐待、人間の尊厳を根こそぎ奪う人権侵害が「学生間指導」と称して、防大内で当たり前のように行われていたこと、またそれは防大が認める「悪しき伝統」として「長年防大内に蔓延していた」ことを明らかにすることはできました。国の判決文にはそれらを認めておきながら全ての場面に於いて、「予見、回避」は困難であり「安全配慮義務違反はない」という結論でした。

防大では毎年募集人員をはるかに超える約600人が着校し、防大用語で言う振るい分けが行われ卒業時には400人前後・・・つまり丁度募集人員の人数になります。振るい分けには粗相ポイント制などが用いられ、上級生の気分次第で1年生にポイントをつけ、指令に従うとポイントを消化。息子は「風俗店での性行為の撮影」の指令をかたくなに拒否し、代わりにラー油の一气飲みや腐った食べ物を食べさせられました。あげくに下半身にアルコールをかけられ火を放たれ、その様子を動画に撮って笑われ、燃え残った毛はカミソリで剃るように命令されました。血がでて傷は膿、下着を脱ぐたび剥がれ、医務室にも行かせてもらえなかったそうです。144名が同じ被害に遭っています。

当時、私は暴力を受けていたことで防大に電話を入れ、「他学生も被害に遭っている」ことを告げ、アンケート調査による「実態の把握」「改善の必要性」を何度も、何度も訴えてきました。また、「加害学生を安易に注意する」と防大の一番のタブーである「チクリ者」としての報復で「部屋で何をされるかわからない」・・・と慎重な対応をお願いしたにも関わらず、適当に扱われ、その後2カ月にもわたり息子は他学生が見ている前で掃除機による性的虐待を受けることになったのです。教官との会話は録音提出しましたし、「部屋替え」という回避手段もあった筈です。沢山の証拠、証言を都合のよいものだけを拾い集め、更に裁判長自らが出した、前回学生の判決さえ無視する、「到底理解に苦しむ」判決は、正義の名の元ではなく、どこかを意識し書いたものだと思えます。

息子は「希望ある未来を私たちに示してください」と陳述しました。しかし、防衛省の腐敗に加え、司法までこのような有様なのか？と。息子は「このままでは終われない」と高裁に行くことを強く希望しました。そもそも、息子が防大に入校したきっかけは自宅を襲った土砂災害でした。今、日本中で災害が発生し、息子と同じような理由から防大を選ぶ若者が増えるかもしれないと考えた時、真実を周知してもらわなければと思いました。このような「人権意識の低い」幹部が24万人の自衛官を指揮する、さらに憲法に明記し権力まで与えてしまうことの恐ろしさは、過去の歴史からも容易に想像がつかます。部下の自衛官に向けられる人権侵害はいずれ国民にも向けられます。「自衛官だから」と無関心でいることのツケは必ず私たちに戻ってくるのです。

毎年1万人が退職し、1万人の補充は出来ていません。採用年齢を引き上げ、定年を延長し

ても、どこの職場でも人員不足の今、日本国籍が必須条件である自衛隊は何らかの形での徴兵制が現実味を帯びてきます。

この裁判を通して色々な問題を考えるきっかけになってくれれば、裁判に勝つことだけに意味があるのではなく、皆さんが眞の裁判官として正しい判決を一人一人が下し、そのことを世論に喚起できた時「希望ある未来」を次の世代に引き継ぐことができるのではないかと、そう信じて頑張ります。

署名用紙を同封していますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。世話人会

【参加の感想】



左から松本さん、仲築間さん、土橋さん、八記。飛行機の時間が迫る中での首里城訪問でした。

■ウチナンチュ（沖縄県民）の心を支えてきた首里城焼失、悲しさの中での日本平和大会。私は初めての参加です。沖縄県知事玉城デニー氏の力強い挨拶に会場は元気をもらい指笛も鳴り沸きました。これがウチナンチュの心かと、私も心が熱くなりました。

全国の自衛隊・米軍基地の強化に反対する各団体から、平和と基地のない戦いの訴えと連帯の呼びかけがありました。福岡県からは「防衛大学のいじめ人権裁判」のお母さんの訴えに、前席にいた女性が涙ながらに聞きっていました。日本に多くの戦争する基地があることを知り、あらためて怒りを感じています。 松本秀樹

■門司の土砂搬出を止めるには、工事のストップしかないと考えてきましたが、工事ストップのためには、政府を変える必要があります。「今頃…」と言われそうですが、大会に参加してたかひの本丸を再確認できました。八記久美子

反戦平和の源流 近代沖縄の民衆運動

安仁屋 政昭著



(あけぼの出版・1760円)

戦前は治安維持法や統制、そして戦後の米軍政治下の渡航制限は戦前戦後の政治活動歴なども根拠とされ、また、布令による出版許可制、立法院の共產主義調査委員会設置もあり、沖縄では大衆闘争などの証言や記録が刊行は憚られ、歴史研究の障害となっていた。

戦前は治安維持法や統制、そして戦後の米軍政治下の渡航制限は戦前戦後の政治活動歴なども根拠とされ、また、布令による出版許可制、立法院の共產主義調査委員会設置もあり、沖縄では大衆闘争などの証言や記録が刊行は憚られ、歴史研究の障害となっていた。

復元完了したばかりの首里城炎上のショックは大きい。しかし、再建への県民の起ち上がりには目を負張るものがある。沖縄県民のこのパワーは何だろうか、そう思いつつこの本を読んだ。

歴史的使命への自覚促す

あにや・まさあき 1934年12月生まれ。57年に広島大学文学部史学科卒業（日本史専攻）。那覇高校教諭、沖縄資料編集所資料調査官などを経て、沖縄国際大学助教授、教授を歴任。現在、沖縄国際大学名誉教授。沖縄平和ネットワーク代表。著書・編著に『裁かれた沖縄戦』『沖縄の無産運動』など。

ともなっていた。復帰後は回想録や自伝などが多数出版される中、渡航自由を獲得し帰郷した際の松本対談は貴重な歴史証言で、今なお新鮮である。やちよもすれば思想・文化の遅れた地方と思われた沖縄だが、実際は差別や弾圧を恐れず近代日本の反体制運動、大衆運動をリードしていたこと、そうした自覚的で実践的な人々を数多く生んだ地域であったことが見えてくる。

さらには、米軍統治下の戦後27年、世界最大の米軍事権力と対峙して不屈の闘いを展開した瀬長亀次郎。その恩師松原摩喜喜の人間味あふれる書簡。復帰後、平和憲法を形骸化させてはならないと、憲法普及協会の結成や自衛隊住民登録拒否をした気概ある那覇市長・平良良松の若き日の近衛師団文書の冤罪弾圧事件の新材料も収録されていて興味深い。

戦後も74年、昭和・平成・令和と年号が変わるなか、劣化し閉塞する日本の政治や民主主義。それを問い続けられている沖縄のアイデンティティ。どうやら沖縄は日本再生の先駆的の地域になっているのではないかと。本書はそうした沖縄の歴史的使命への自覚を促す記憶の本でもある。（真栄里泰山・沖縄大学客員教授、おきなわ住民自治研究所理事長）

お問い合わせは守屋さん(北九州)050075219366まで

海兵隊操縦中読書や髭剃り等…大事故の前に

あたごやま平和研究所 田村順玄（リムピース共同代表・前岩国市議会議員）

2003年、米軍は「世界編成」を打ち出し、日本とは2005年に合意。2006年には「在日米軍再編ロードマップ」で具体的に内容が示されました。その内容を一言でいえば、「自衛隊を米軍の手足のようを使う」と言うもの。

すでに陸・海・空軍の自衛隊と米軍の司令部機能の統合はほぼ実現。ちなみに、自衛隊の指揮権は、1952年からアメリカが持っています。

そのような中で、今日本がどのようになっているのかを、シリーズでお伝えしたいと思います。第1回目は、嘉手納を抜いて極東一となった岩国基地のことを、田村順玄さんに書いていただきました。

■はじめに

「岩国基地の過去・現在・未来」と言うテーマで原稿を書こうとして、岩国基地の現状に愕然とした。紙面の都合で先日の「米軍の規律違反事案・岩国基地の海兵隊の不祥事」についての記述だけで2000字の制限を突破する事だろう。その他のテーマはまた後日頂ける機会があれば書くことにする。

■軍用機の総数は120機を超えた

昨年12月、岩国基地海兵隊に所属するFA18 ホーネットと普天間基地から移転してきたKC130 空中給油機が接触事故を起こし、高知県沖に墜落した。この時両機は墜落し、乗員6名が犠牲になる大事故

であった。岩国基地に関連する米軍機の事故は、これだけに留まらず年間を通じて度々発生し、市民に大きな不安を陥れている。

厚木から移転した原子力空母ロナルド・レーガンの艦載機は昨年3月には全てが移転を完了し、岩国基地を拠点に本格的な作戦行動を展開している。11月28日、空母から一斉にこれらの約60機の艦載機は、しばらく羽を休めるところか、数日後からは岩国基地を拠点に激しい訓練を繰り返し爆音を浴びせかけている。岩国基地にはこうして、70年間駐留する海兵隊部隊に加え海軍の艦載機部隊が加わって、軍用機の総数は120機を超えた。その規模は今や極東一で、嘉手納基地を凌ぐ巨大基地となった。

■日本中を驚かす驚愕の事実

それらの米軍機が入り乱れ連日訓練を繰り返していた11月3日、新聞朝刊に大きなニュースが飛び込んできた。前日にその内容を知らされ、筆者のコメントも翌日の朝刊には掲載されたが、記事の内容は冒頭紹介した昨年末の高知県沖事故に関するものだった。

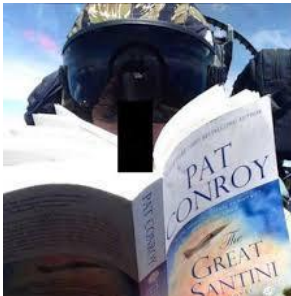
米軍は今年9月、この事故の報告書をまとめ日本政府に報告していた。しかしその報告書にはありきたりの内容で、特に新



極東一の規模となった岩国基地

聞記事になるようなものでは無かった。

しかしこの報告書をくわしく読み込んだ共同通信の記者が、日本中を驚かさ驚愕の事実を報道した。書かれていたのは、岩国基地の戦闘機部隊の隊員が、操縦中に手放して本を読んだり、ひげを剃りながら自撮り行為、墜落事故の乗員二人からは睡眠導入剤の成分までも検出された。薬物の乱用やアルコールの過剰摂取、不倫なども有り軍隊の規律が大きく乱れていた。



操縦中に本を読むパイロット

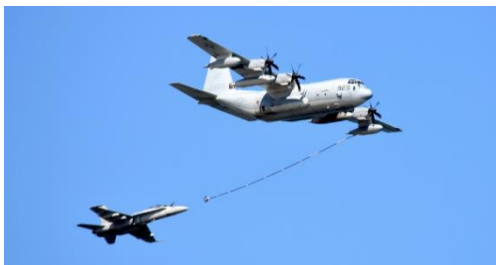
■共同通信社の報道で世間に

日米合同委員会が平成 8 年に合意した約束で、米軍は航空機の事故があった時は 6 か月以内にその事故の調査報告書を日本政府に報告することになっている。今回も 9 月に、日本政府にその事故報告書は届いていた。そして 10 月には防衛局を通じ岩国市に報告されていたが、防衛局からは今回指摘されたような事実は全く知らされていなかった。

米軍の報告書は全て英文の 1600 ページを超える膨大なもので、誰も本文を詳しく読んだものは居なかった。

これが共同通信社の報道で世間にさらされ、結果的に日本中に公式の事故報告書として認知され、知ることになった。

しかしこんな大変な事実が判ったのに、



空中給油する戦闘機

政府・防衛省から公式な情報提供は未だなく、国とて米第一海兵航空団のホームページに掲載されているということを伝えるばかりだった。

全ては新聞記事から伝聞の報道内容を知る事しかできない、これはこれらの航空機が飛び交う岩国基地で岩国市当局も同様で、知る由もない現実であった。

■岩国市は及び腰

私たちはこうした事実を知って早速、岩国市に抗議と真相究明を求め要請行動を行った。岩国市は報道や市民に、「言語道断」と言う言葉を使い怒って見せたが、岩国基地司令官へは電話による真相究明と要請という及び腰の行動であった。

こうした FA18 ホーネットの部隊が日常的に私たちの頭の上で訓練を続け、飛行しているということは断じて許されず、今すぐに全部の米軍機が岩国から引き揚げてもらいたいと思うくらいだ。

■大きな事故が起こる前に食い止めて

今回、筆者は「異議あり！基地との共存実行委員会」で岩国市に申し入れを行い、この時に英文の事故報告書の現物が岩国市に存在することを確認、その全てを入手することが出来た。同様に 20 年前、高知県沖で空中給油中に墜落した FA18 と KC135 の墜落事故報告書を筆者が共同代表の「リムピース」で分析し、四国を飛ぶ低空飛行「オレンジルート」の全容解明を行ったことを思いだす。

あらためて在日米軍のこのようなデータメの運用ぶりを、草の根からしっかり告発し、大きな事故が起る前に食い止めてゆく、そのような岩国基地の現実が有る今である。

岩国基地の目の前に、山積する多くの課題は留まることを知らず増え続けているが、そうした動きにひるむことなく一つずつ地道に立ち向かってゆくことを決意する岩国からの報告である。(たむらじゅんげん)

浦島悦子の連続エッセー 《南の島から》 No.1

自然なくして文化は生まれない

ヘリ基地いらない二見以北十区の会共同代表／フリーライター



名護市東海岸・大浦湾沿いに点在する10の小さな集落。「二見以北十区」と呼ばれるこの地域に私が暮らし始めて20余年が経つ。やんばる(山原＝沖縄島北部)の豊かな自然の中での暮らしを求めて、たどり着いた場所だ。

海と山に抱かれ、その恵みを受けながら、またあるときには自然の脅威とたたかいながら、人々は暮らしを紡ぎ、文化を育ててきた。沖縄戦のときには島の中南部の人々の避難地域となり、その後、上陸してきた米軍によって収容所地域とされた。この地に駐屯した米軍将校は「地の果ての美しさ」と、その景観を讃えたという。

*

貧しいながらも温かで緊密だった地域コミュニティに楔を打ち込んだのは、1996～7年、この地に突然持ち上がった「辺野古新基地建設計画」だった。地域住民はこぞって、「子や孫の未来に基地はいらない!」と立ち上がり、97年12月には名護市民投票を行って「新基地 NO!」の意思をはっきりと示した。しかしながら、政府の圧力に負けた当時の市長が市民意思を踏みにじって基地を受け入れ、以来今日まで、「アメとムチ」による執拗な攻撃が地域を分断・翻弄し、人々に苦難を強いてきた。

*

市民投票から22年。安倍政権は県民の強い反対の意思を足蹴にし、法律を捻



じ曲げ、昨年12月ついに、世界屈指の生物多様性を誇る辺野古・大浦湾への土砂投入に踏み切った。しかし、内外の強い反対世論や現場での抵抗、海底の軟弱地盤・活断層などの自然条件にも阻まれて工事は進んでいない。

*

朝日が昇り、月が昇る東(アガリ)の海、大浦湾。満月の夜、海面にはキラキラと輝く光の道ができる。この道をどこまでも行けば、水平線の彼方にあるというニライカナイ(魂の源郷)にたどり着けそうな気がする。「ニライカナイの神々の使い」といわれるジュゴンもこの海のどこかでこの月を見ているだろうか。

*

10月31日、復元完成したばかりの首里城が焼失した。とてもショックを受け、悲しかったけれど、人々の心と技術、努力を集めて、いつか必ず復元できるだろう。しかし、破壊された自然は復元できない。人の手で自然は、命は造れないのだ。そして、首里城をはじめとする文化を育てる基盤はとりもなおさず自然であり、自然なくして文化は生まれない。私たちが基地に反対し、辺野古・大浦湾の自然を守りたいのはそういうことなのだ。

※これから連載をさせていただくことになりました。沖縄・やんばるの小さな村の一住民の眼から見た、自然のこと、暮らしのこと、基地反対運動のことなど、感じるままに書いていきたいと思えます。ゆたさるぐとうにげーさびら(よろしくお願いいたします)。(うらしまえつこ)

《辺野古土砂北九州・今後の予定》



- 12月2日(月)～4日(水)…《土砂全協・沖縄連続学習会・沖縄-全国の連帯で辺野古埋立は止められる!》中城村・南風原町・名護市
- 12月4日(水)…《土砂全協役員会議》名護市
- 12月11日(水)…《門司地域ビラ配布》 14時門司駅前南口(戸ノ上山側)集合
みなさんの参加をお待ちしています。
- 12月12日(木)…《第4回世話人会》 18時30分～・生涯学習総合センター
オブザーバー参加できます。のぞいてみませんか?
- 12月13日(金)…《県と市に外来生物対策条例の制定を申し入れるイロハ教室》
13時～17時・生涯学習センター。外来生物対策条例とはそもそも何なのか～申し入れの文章まで、土砂全協の顧問・末田一秀さん(元大阪府環境行政担当職員)を講師に、手とり足とり教えていただきます。興味のある方はぜひご参加ください。
- 12月21日(土)…「門司駅前街頭宣伝」16時～17時 定例は28日ですが、年末なので、21日に変更。また、21日の小倉駅前には他の団体の定例宣伝日なので、場所を門司駅に移して行きます。ぜひご参加ください。
- 1月予定…ロ〜ングラン DVD 上映会 場所・時間・上映作品未定
好評だった「ドローンの眼」をはじめ、「this is a オスプレイ」「this is a 海兵隊」「忘れられた島の戦い」「横田基地」「自衛隊の南西シフト」などなど、当会が持っているDVDを朝から夕方まで上映します。参加費500円で、全部見てもいいし、出入りも自由です。好きな作品をご覧ください。詳細は会報の1月号をご覧ください。

《編集後記》

先日とある学習会で講師が「寝る前に今日あった良いこと3つと、感謝したいこと3つ書いて寝るといいですよ」と話されていました。何でも3日坊主の私は、案の定3日目は翌朝起きて書く始末。でも、なんとなく気持ちが穏やかで夫に優しくなった気がします。いつの間にか、辺野古・沖縄の文字を追うのが習慣になった私ですが、畑違いの学習も、なかなかいいものです。さて、今日は4日目。寝る前にきちんと書けるかな? (y)



「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会
〒803-0816 北九州市小倉北区金田 1-3-32-308 八記方
八記 080-1730-8895・南川 090-2853-7116・藤堂均 090-6299-2608
kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp